

平成31年度

東京都立高等学校入学者選抜学力検査結果に関する調査

報告書

令和元年6月

東京都教育委員会



## はじめに

東京都教育委員会は、東京都立高等学校入学者選抜学力検査結果に関する調査を毎年実施し、中学校、義務教育学校及び高等学校の教科指導に活用できるよう、その結果を公表しています。

東京都立高等学校入学者選抜学力検査問題は、中学校学習指導要領に示されている教科の目標及び内容に照らして、一部の領域に偏ることのない基本的な事項から出題されています。言い換えれば、入学者選抜のための問題であるとともに、中学校又は義務教育学校の教育課程を修了する東京都の中学生一人一人の学習成果を測るものといえます。

平成31年2月22日に実施した学力検査に基づく入学者選抜では、約43,000人もの生徒等が受検しました。本調査報告書では、学力検査結果を分析し、各教科の平均点、得点分布及び各問の正答率や、正答率の低い問題を中心に主な誤答や誤答に至った原因分析等を掲載しています。

中学校及び義務教育学校においては、国語・数学・英語・社会・理科の各教科のどのような分野や領域の力が身に付いているのか、また、苦手としているのかなど、東京都の中学生の学習状況の実態を表した調査結果と自校の生徒の状況との比較により、成果と課題の把握や、生徒の習熟の程度を高めるために必要な指導方法の工夫・改善等に活用することができます。

また、高等学校においては、調査結果と入学した生徒の学力検査結果との比較による学力の分析や、生徒の実態に基づいた学習指導計画の立案、学力向上に向けた指導方法の工夫・改善等、「都立高校学力スタンダード」の策定に活用することができます。

各区市町村教育委員会、各中学校及び義務教育学校並びに高等学校におかれましては、本調査報告書に掲載した内容等を、生徒の実態把握や授業のねらいの設定など、生徒の様々な力を伸ばす学習指導に活用していただければ幸いです。

令和元年6月

東京都教育委員会

## 目 次

I	平成31年度東京都立高等学校入学者選抜学力検査問題出題の基本方針	1
II	調査目的	1
III	調査内容	1
IV	調査結果	
1	概要	1
(1)	教科別受検者数	
(2)	教科別実施校数	
(3)	教科別平均点	
2	各教科	2
(1)	国語	2
(2)	数学	4
(3)	英語	6
(4)	社会	8
(5)	理科	10

### 参考資料

1	平成31年度東京都立高等学校入学者選抜学力検査問題 (第一次募集・分割前期募集)	12
2	平成31年度東京都立高等学校入学者選抜学力検査問題 (第一次募集・分割前期募集) 正答表	26

## I 平成31年度東京都立高等学校入学者選抜学力検査問題出題の基本方針

- 1 中学校の教育課程に基づく学習の成果としての学力を検査することを基本とし、出題の範囲は、中学校学習指導要領に示されている内容によるものとする。
- 2 出題の内容は、各教科とも、中学校学習指導要領に示されている教科の目標及び内容に照らして基本的な事項を選ぶとともに、一部の領域に偏ることのないようにする。
- 3 出題に当たっては、基礎的・基本的な知識及び技能の定着や、思考力、判断力、表現力などをみるとともに、体験的な学習や問題解決的な学習などの成果もみることができるようにする。

## II 調査目的

- 1 上記Iの基本方針に基づき東京都教育委員会が作成した学力検査問題（以下「共通問題」という。）を受検した者について、その学力の実態を把握する。
- 2 各教科・各問の正答及び誤答を分析し、その結果を中学校、義務教育学校及び高等学校に提供することで、各学校における教科指導の改善に資する。

## III 調査内容

平成31年度入学者選抜の第一次募集・分割前期募集（平成31年2月22日実施）において、全日制高等学校を志願し、共通問題により学力検査を受検した者について、次の調査を実施した。

- 1 教科別の平均点及び得点分布  
全数調査により、教科別得点状況等を調査した。
- 2 各教科の小問・大問正答率  
抽出調査により正答率を求めた。調査に当たっては、信頼度95%を担保するに十分な人数の受検者を抽出した。  
小問正答率は、小問において、抽出した受検者数に対する正答（部分正答を含む。）者数が占める割合である。大問正答率は、大問において、各小問で抽出した受検者の総数に対する、各小問での正答（部分正答を含む。）者の総数が占める割合である。

## IV 調査結果

### 1 概要

#### (1) 教科別受検者数

国 語	数 学	英 語	社 会	理 科
36,273人	36,276人	36,030人	40,590人	40,590人

#### (2) 教科別実施校数

国 語	数 学	英 語	社 会	理 科
151校	151校	150校	165校	165校

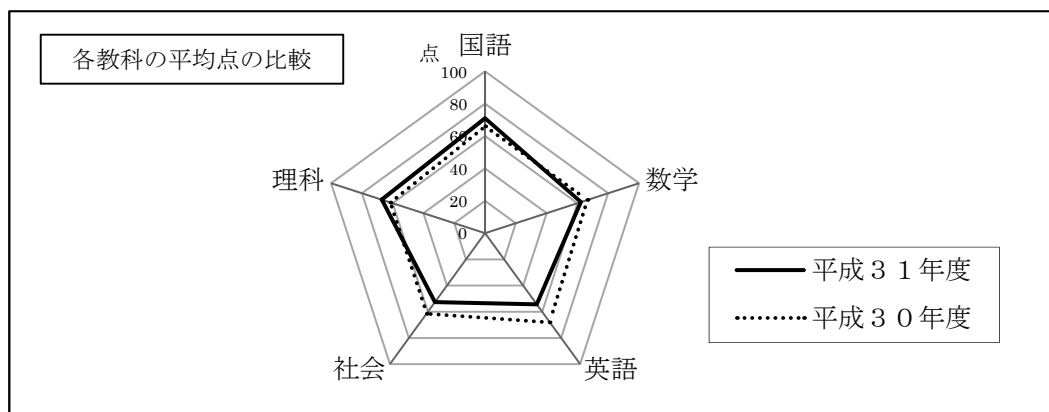
#### (3) 教科別平均点

国 語	数 学	英 語	社 会	理 科
71.0点 (65.9点)	62.3点 (66.5点)	54.4点 (68.0点)	52.7点 (61.5点)	67.1点 (61.5点)

(注1) 各教科の満点は100点である。

(注2) 記述式の問題や作図の問題では、各学校で部分点を与えるなど採点上の配慮を行っている。

(注3) 教科別平均点欄の（ ）内の数字は、平成30年度入学者選抜学力検査における各教科の平均点である。



## 2 各教科

### (1) 国語

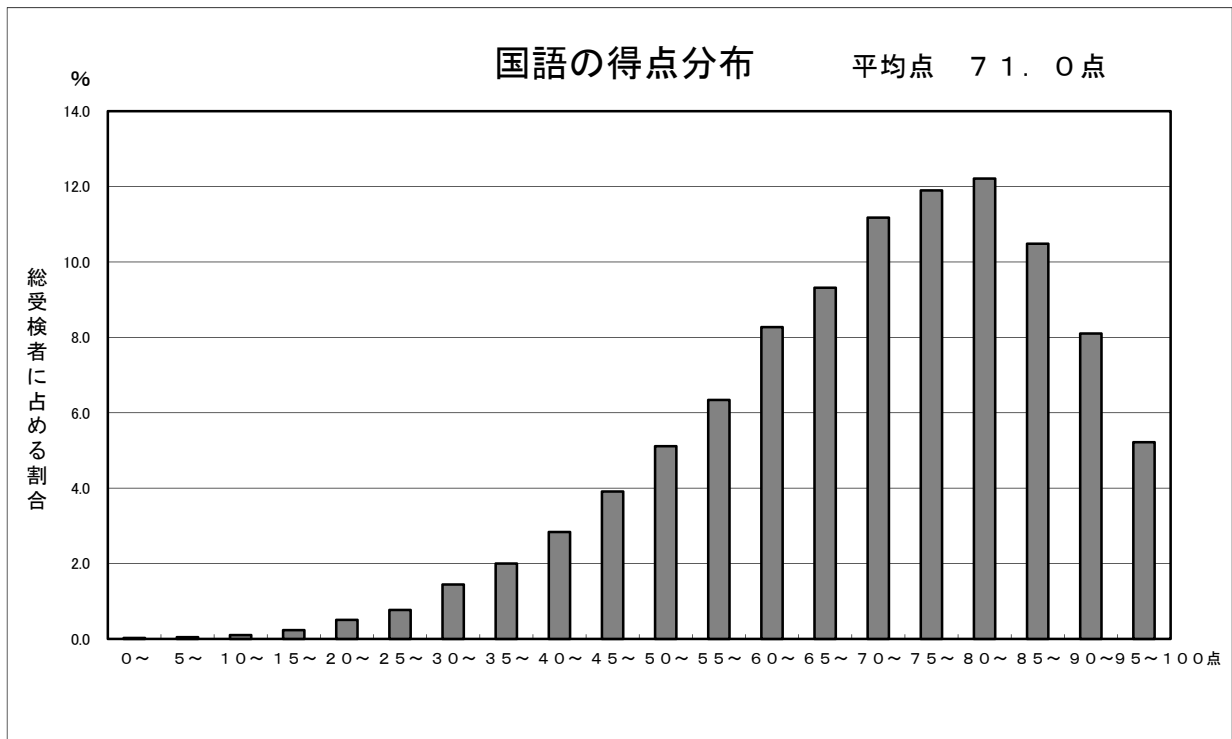
#### ア 出題の方針

国語を適切に表現し正確に理解する能力をみるとともに、伝え合う力や思考力及び想像力を総合的にみる。

#### イ 各問のねらい

- 1 漢字を正しく読む能力をみる。
- 2 漢字を正しく書く能力をみる。
- 3 文学的な文章を読み、叙述や描写などに即して、語句や文の意味、登場人物の様子、心情などを正しく理解する能力をみる。
- 4 説明的な文章を読み、叙述や文脈などに即して、語句や文の意味、文章の構成及び要旨などを正しく読み取る能力をみるとともに、考えが正確に伝わるように構成を工夫しながら、相手や目的に応じて自分の意見を論理的に表現する能力をみる。
- 5 対談を含め、古典を引用した複数の資料を読み、古典並びに現代の語句及び資料の内容について理解する能力をみるとともに、発言の役割を理解することを通して伝え合う力をみる。

#### ウ 得点分布状況



#### 〈昨年度との比較〉

平均点は71.0点となり、昨年度より5.1点上昇した。

今年度は、分布のピークが昨年度の70点～74点から80点～84点に移るとともに、70点以上の受検者の割合が増加した。

エ 各問の内容及び正答率並びに誤答分析

(ア) 各問の内容及び正答率

- 1 漢字を正しく読む能力をみる問題とした。
- 2 漢字を正しく書く能力をみる問題とした。
- 3 白木蓮にまつわる亡き母との思い出について、主人公と家族が語り合う様子と、当時の回想を描いた小説を読み、表現の特徴や人物の様子、心情などを読み取る問題とした。
- 4 アートを通じて「新しい『何か』に出会うこと」について論じた文章を読み、文脈に即して内容を正確に読み取る問題、筆者の主張を正確に読み取る問題、文脈から段落の役割を捉える問題、本文の主題を踏まえて自分の意見を聞き手に分かりやすく伝える力をみる問題とした。
- 5 桜を題材にした和歌に関する対談及び古典の一部を読み、歴史的仮名遣いを含む語句を答える問題、話の進め方の特徴を読み取る問題、要旨を捉える問題、語句のはたらきや意味を答える問題とした。

(イ) 主な誤答例等

- 1 (5)「もよお(される)」の正答率が低く、「もよう」と表記する誤答が多かった。
- 2 (1)「綿密」、(2)「拡張」の正答率が低く、(1)は「面密」、(2)は「拡張」と書く誤答が多かった。
- 3 [問1]では、「ウ」という誤答が多かった。これは、「いそいそと」の言葉の意味は理解しているものの、なぜ「いそいそとやってくる」のかという理由を十分に読み取ることができなかつたためと考えられる。また、[問3]では、「ア」という誤答が多かった。これは、「遠くなった記憶を引き寄せながら」話す様子と表現の効果を理解する力が十分ではなかつたためと考えられる。
- 4 [問4]では、「ア」という誤答が多かった。これは、筆者が自分の「フィルターを通して見た世界」をアートとして表現していることを、絵や写真に描かれた世界についての叙述や文脈からの確に捉えることができなかつたためと考えられる。また、[問5]では、自分の体験や見聞を挙げてはいるものの、「新しい『何か』に出会うこと」というテーマで意見を述べるための根拠として適切ではない解答が目立った。これは、テーマと文章全体を通して表現されている筆者の主張とを十分に理解できなかつたためと考えられる。
- 5 [問1]では、「ウ」と「エ」という誤答が多かった。これは、「桜の花」が「公的な花」になった時代を対談からの確に捉えることができなかつたり、趣味を「植えつける」の意味を理解できなかつたりしたためと考えられる。また、[問2]では、「ア」という誤答が多かった。これは、大岡さんの発言から紀貫之と西行の歌の特徴について理解できなかつたためと考えられる。

大問	小問	配点	小問正答率	大問正答率
1	(1)	2	79.8%	72.6%
	(2)	2	67.9%	
	(3)	2	65.6%	
	(4)	2	92.3%	
	(5)	2	57.3%	
2	(1)	2	62.0%	78.6%
	(2)	2	69.5%	
	(3)	2	78.3%	
	(4)	2	91.9%	
	(5)	2	91.2%	
3	※ [問1]	5	51.8%	63.7%
	※ [問2]	5	90.9%	
	※ [問3]	5	40.5%	
	※ [問4]	5	69.3%	
	※ [問5]	5	66.0%	
4	※ [問1]	5	77.0%	☆72.1%
	※ [問2]	5	67.9%	
	※ [問3]	5	77.4%	
	※ [問4]	5	59.2%	
	[問5]	10	☆79.0%	
5	※ [問1]	5	51.5%	64.6%
	※ [問2]	5	60.5%	
	※ [問3]	5	63.9%	
	※ [問4]	5	67.4%	
	※ [問5]	5	79.6%	

(注1) ☆は部分正答も含めた割合

(注2) ※は記号選択式の問題

オ まとめと指導の改善の視点

- (ア) 1, 2の正答率の高さから、漢字についての知識はおおむね身に付いていると考えるが、誤答の内容から、語彙が十分ではないと考えられる。日頃の授業において、事象や行為、心情を表す語句の量を増すために、話や文章の中で語句がどのように使用されているか、自分が理解したり表現したりするときの用い方について考えさせることが重要である。また、「へん」や「つくり」など漢字の構成要素に着目した指導や、辞書等を用いて漢字の正確な形、語句の意味や用法を確認する活動を通して、漢字の基礎的・基本的な力を確実に身に付けさせることが必要である。
- (イ) 3の[問1]、[問3]の正答率の低さから、登場人物の相互関係や心情などについて描写を基に捉える力や、文章の構成や展開、表現の効果について理解する力が十分ではないと考えられる。文学的な文章の学習において、情景の描写や話の展開に着目して登場人物の言動の意味や理由について考えさせたり、文章の内容を伝えたり印象付けたりする上で、表現がどのように働いているか考えさせたりすることが大切である。
- (ウ) 4の[問4]の正答率の低さから、叙述や文脈などに即して、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などを捉える力が十分ではないと考えられる。説明的な文章の学習において、文章中のキーワードやキーセンテンスなどに留意して情報を整理する指導や、文章を読んで理解したことや考えたことを報告したり文章にまとめたりする活動が必要である。
- (エ) 5の[問1]の正答率の低さから、文脈の中における語句の意味を的確に理解する力が十分ではないと考えられる。日頃の授業において、語句の意味について調べたことを記録したり、その語句を使った短文を作ったりすることなどを通して、話や文章の中で語句を使うことが必要である。

## (2) 数学

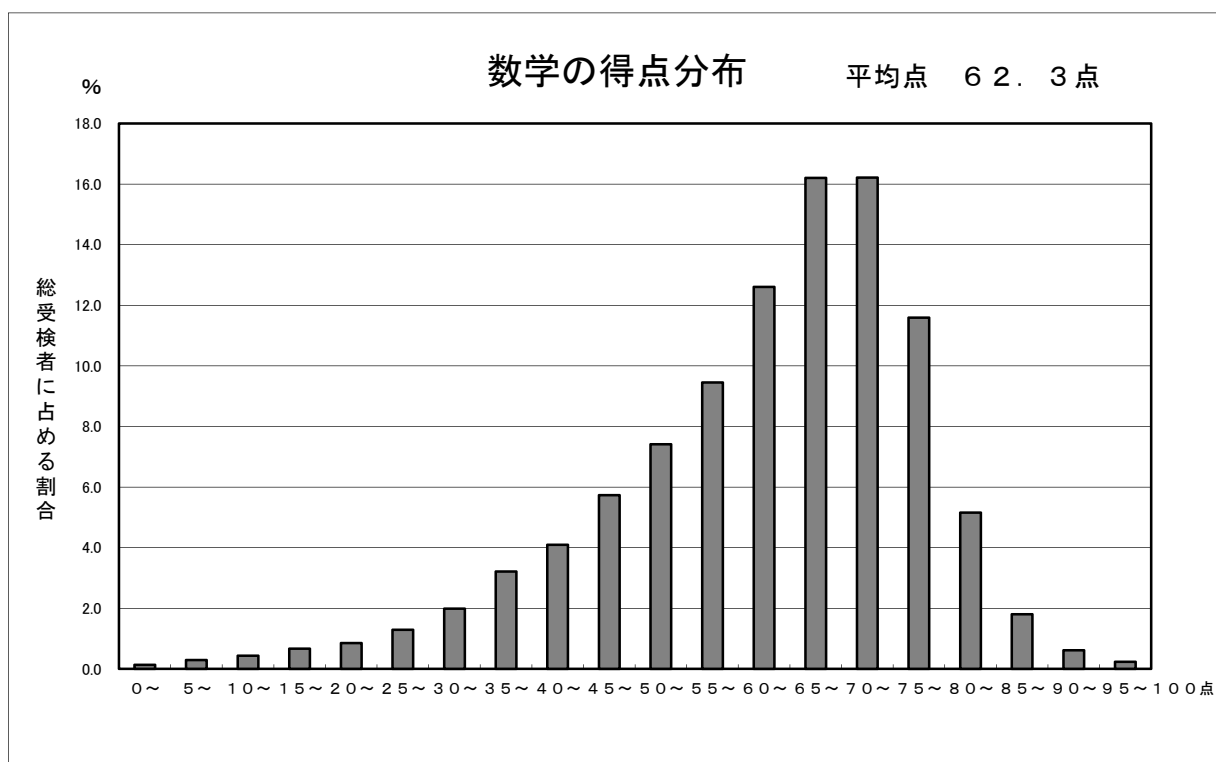
### ア 出題の方針

数量や図形などに関する基礎的・基本的な事項についての知識・理解をみるとともに、数学的な見方や考え方、数学的な技能に関する能力をみる。

### イ 各問のねらい

- 1 数と式，図形，資料の活用の各領域に関する基礎的・基本的な事項についての知識・理解及び数学的な技能に関する能力をみる。
- 2 数学的活動の場面をもとに，数学的な見方や考え方に基づいて事象を数理的に考察し処理する能力や，推論の過程を的確に表現する能力をみる。
- 3 関数についての知識・理解をみるとともに，関数関係を表現し，見通しをもって論理的に考察し処理する能力をみる。
- 4 平面図形についての知識・理解をみるとともに，見通しをもって論理的に考察し処理する能力や，推論の過程を的確に表現する能力をみる。
- 5 空間図形についての知識・理解をみるとともに，図形に対する直観的な見方や考え方を基に，見通しをもって論理的に考察し処理する能力をみる。

### ウ 得点分布状況



#### 〈昨年度との比較〉

平均点は62.3点となり，昨年度より4.2点下降した。

今年度は，分布のピークが昨年度と同様に65点～69点となり，80点以上の受検者の割合が減少した。



エ 各問の内容及び正答率並びに誤答分析

(ア) 各問の内容及び正答率

- 1 計算問題や作図など基礎的・基本的な事項についての知識・理解及び数学的な技能に関する能力をみる問題とした。
- 2 正方形や円を題材として、合同な図形を規則的に重ねてできる図形の周りの長さについて、数学的に考察し処理する能力や、文字を用いて推論の過程を的確に表現する能力をみる問題とした。
- 3 一次関数を題材として、直線上にある点の座標を求める問題、2点を通る直線の式を求める問題、三角形の面積を考察し処理する能力をみる問題とした。
- 4 平行四辺形を題材として、文字を用いた式で角の大きさを表す問題、三角形の相似を証明する問題、平行線と線分の比、相似な三角形の性質等を組み合わせて面積比を求める問題とした。
- 5 三角すいを題材として、空間図形における線分と面の位置関係に着目し、空間の中でできる線分の長さを求める問題、三角すいの中でできる立体の体積を求める問題とした。

(イ) 主な誤答例等

- 1 〔問6〕では、「 $\frac{5}{2}$ 、 $-\frac{7}{2}$ 」という誤答が多かった。これは、解の公式の「 $b$ 」に対応する二次方程式の係数を正しく捉えることができなかつたためと考えられる。  
〔問7〕では、「 $\frac{1}{2}$ 」という誤答が多かった。これは、組合せが同じものを重複して数えたり、3の倍数となる場合が何通りあるかを正確に求めることができなかつたりしたためと考えられる。
- 2 〔問2〕では、部分正答を含めた正答率が5.2%、無答率は71.6%であった。これは、円を $n$ 個目まで重ねた図形の周りの長さをいくつかのおうぎ形の弧に分けて考察する過程で、おうぎ形の弧の個数を的確に捉えることができず、おうぎ形の弧の長さを文字を用いて表すことができなかつたり、説明の見通しが立たなかつたりしたためと考えられる。
- 3 〔問2〕②では、誤答率が45.9%、無答率が41.7%であった。これは、直線上の点の座標を、文字を用いた式で表し、 $\triangle BPQ$ の面積と $\triangle BAP$ の面積の関係を正しく処理することができなかつたためと考えられる。
- 4 〔問2〕②では、誤答率が56.8%、無答率が41.3%であった。これは、 $\triangle AQR$ の面積と四角形 $QBSR$ の面積の関係を、平行線と線分の比や相似な図形の性質等を組み合わせて考察する見通しが立たなかつたためと考えられる。
- 5 〔問2〕では、誤答率が51.5%、無答率が35.5%であった。これは、三角すいの中でできる立体の底面と高さを正しく捉えたり、平行線と線分の比の性質や中点連結定理等を使って高さを求めたりすることができなかつたためと考えられる。

大問	小問	配点	小問正答率	大問正答率	
1	〔問1〕	5	95.4%	☆79.9%	
	〔問2〕	5	93.5%		
	〔問3〕	5	85.7%		
	〔問4〕	5	88.3%		
	〔問5〕	5	92.1%		
	〔問6〕	5	69.0%		
	〔問7〕	5	39.2%		
	〔問8〕	5	74.1%		
	〔問9〕	6	☆82.2%		
2	※〔問1〕	5	52.8%	☆29.0%	
	〔問2〕	7	☆5.2%		
3	〔問1〕	5	87.5%	55.2%	
	〔問2〕	※①	5		65.7%
		②	5		12.4%
4	※〔問1〕	5	68.3%	☆42.6%	
	〔問2〕	①	7		☆57.5%
		②	5		1.9%
5	〔問1〕	5	57.6%	35.3%	
	〔問2〕	5	12.9%		

(注1) ☆は部分正答も含めた割合

(注2) ※は記号選択式の問題

オ まとめと指導の改善の視点

- (ア) 1の正答率の高さから、基礎的・基本的な事項についての知識・理解及び数学的な技能についてはおおむね定着しているが、4〔問2〕②の正答率の低さから、基礎的・基本的な事項を活用したり、それらを組み合わせて考察したりする力が十分ではないと考えられる。与えられた図の中の平行線や相似な三角形に着目して、線分の比を見いだす場面や、相似な図形の性質、平行線と線分の比などの既習事項を関連付けて考える場面を設けた指導を充実させる必要がある。
- (イ) 2の正答率や4〔問2〕①の正答率が昨年度よりも低下していることから、推論の過程を的確に表現する力を育むことが課題であると考えられる。考えたことや工夫したことなどを、数学的な表現を用いて根拠を明らかにしながら他者に分かりやすく説明し、伝え合う活動を通して、正確に分かりやすく表現する能力を一層高める指導を充実させる必要がある。
- (ウ) 5の正答率の低さから、立体の中でできる平面等を的確に捉える力が十分ではないと考えられる。実際に立体を作ることや立体の見取図、展開図、投影図を用いるなどして、空間における線分と面の位置関係を捉えたり、空間図形を平面図形に帰着させて考えたりする指導を充実させる必要がある。

(3) 英語

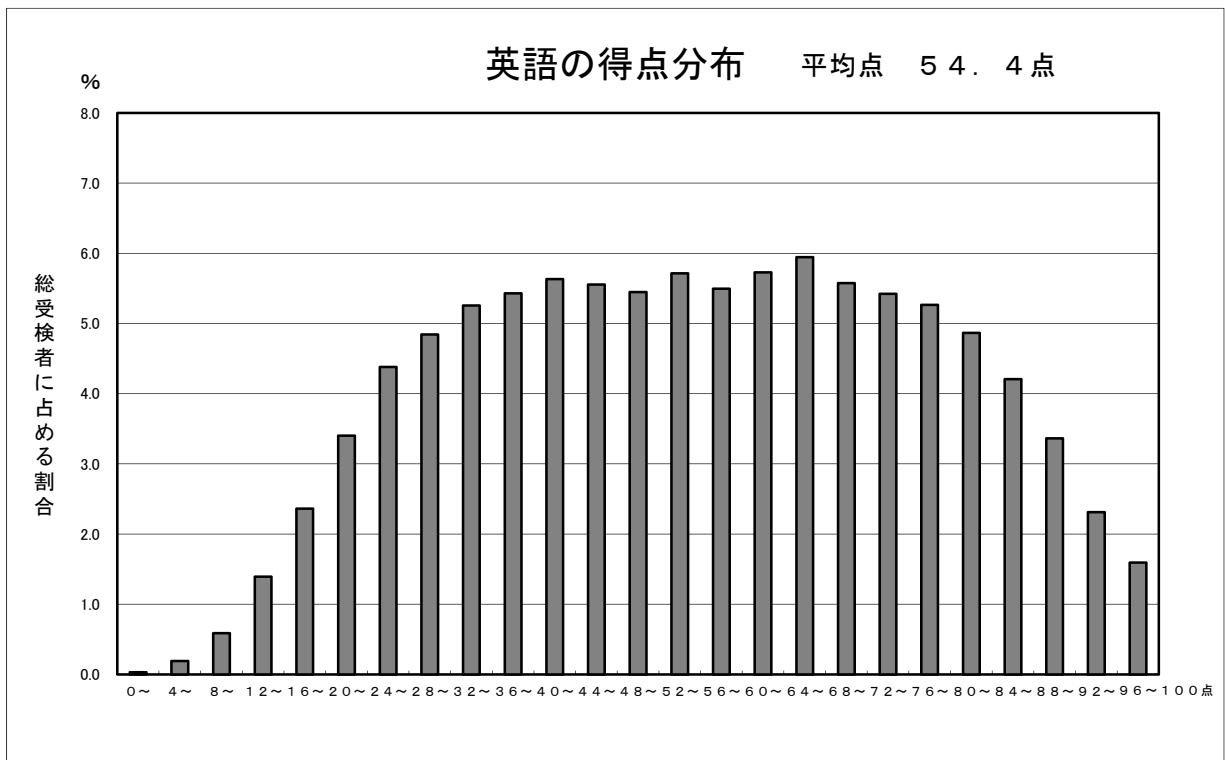
ア 出題の方針

初歩的な英語を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意向などを理解するとともに、自分の考えなどを表現するコミュニケーション能力をみる。

イ 各問のねらい

- 1 自然な口調で話される英語を聞いて、その具体的な内容や大切な部分を把握したり、聞き取った事柄について英語で表現したりする能力をみる。
- 2 英語によるコミュニケーションを通して身近な課題を解決する能力をみるとともに、必要な情報を得たり、自分の考えを英語で表現したりする能力をみる。
- 3 まとまりのある対話文を読み、その流れや大切な部分を把握する能力をみる。
- 4 物語文を読み、そのあらすじや大切な部分を把握する能力をみる。

ウ 得点分布状況



〈昨年度との比較〉

平均点は54.4点となり、昨年度より13.6点下降した。

今年度は、64点~67点の割合が若干高くなっているものの、40点~67点までがほぼ同じ割合の分布になっており、80点以上の受検者の割合が減少した。

エ 各問の内容及び正答率並びに誤答分析

(ア) 各問の内容及び正答率

① 祖父から届いたEメールを読んでいる場面での対話やある日のデパートでの館内放送などを聞き、その具体的な内容や大切な部分を把握したり、聞き取った事柄について英語で表現したりする能力をみる問題とした。

② 日本人の高校生とカナダからの留学生が、祭りを訪れる際に、開催される公園までの行き方を確認したり、パンフレットを見ながら午後の予定を決めたりする場面を題材として、英語によるコミュニケーションを通して身近な課題を解決する能力をみる問題とした。

また、帰国した留学生から受け取ったEメールに対して、返事のEメールを完成させる場面を設定し、「最近、自分が新たに始めたこと」について、自分の考えを英語で表現する能力をみる問題とした。

③ 「新しい自転車を買いたい。」と登場人物の一人が発言したことをきっかけに、リユース、リデュース、リサイクル、シェアリングについて具体例を出しながら自分たちの考えを述べ合い、今持っているものを大事に使うことが大切であると認識するという内容の対話文を読んで、対話の流れや登場人物の考えを把握する能力をみる問題とした。

④ 中学生の主人公が、ある日、祖父の家に行き、学校で勉強したことが卒業後に役立つこと、勉強することは人生を豊かにするという話を聞く。その後、祖父と市民講座に参加し、そこで知り合った大学生を訪ね、オーストラリアからの留学生と百人一首を行う。祖父の語った勉強の意義について実体験することで、自分の人生をより豊かにするためにもっと学習したいと感じるようになったという内容の物語文を読み、本文のあらすじや主人公の心情の変化を把握する能力をみる問題とした。

(イ) 主な誤答例等

① Bの〈Question 2〉では、“He wants to enjoy Japanese food.”や“Enjoy Japanese food.”などとする誤答が多かった。これは、質問中の“want people in other countries to do”の内容が正しく聞き取れていなかったり、解答すべき内容が不十分になってしまったりしたためと考えられる。

② 2では、「ウ」という誤答が多かった。これは、本文中の二人の対話と表のスケジュールから条件に合う予定を正しく読み取ることができなかつたためと考えられる。また、3(2)では、「最近、自分が新たに始めたこと」という主題に正対して書こうとしているものの、英語で正しく表現することができなかつた誤答が多く見られた。

③ [問6]では、「イ」という誤答が多かった。これは、問われている具体的な例を、対話の流れに沿って正しく理解することができなかつたためと考えられる。また、[問7]では、「ア」や「イ」という誤答が多かった。これは、本文のあらすじを正しく把握することができなかつたり、本文と同じ内容を別の表現方法で表す場合に求められる文構造や語法についての理解が十分でなかつたりしたためと考えられる。

④ [問2]では、「エ」と「イ」を取り違える誤答が多かった。また、[問4] (1)では、「ア」や「ウ」という誤答が多かった。これは、本文のあらすじを正しく把握することができなかつたり、本文と同じ内容を別の表現方法で表した選択肢を正しく読み取れなかつたりしたためと考えられる。

オ まとめと指導の改善の視点

(ア) ①及び②の結果から、まとまりのある英語を聞いて、聞き取った事柄や自分の考えを英語で正しく表現する力を一層育成するために、複数の技能を統合した学習活動をより多く取り入れるなど、学習した表現方法の定着を図る指導の充実が必要である。

(イ) ③及び④の結果から、まとまった量の文章を用いて時系列を整理させ、登場人物の発言や行動などに注意して読ませることで、対話の流れや物語のあらすじ、本文の大切な部分を把握する力を高める指導の充実が必要である。また、元の文章とは別の表現方法を用いて表現するような活動を通して、幅広い表現方法の定着を図る指導が一層必要である。

大問	小問	配点	小問正答率	大問正答率	
①	※A	〈対話文1〉	4	50.3%	☆50.1%
		〈対話文2〉	4	69.0%	
		〈対話文3〉	4	73.9%	
	B	※〈Question 1〉	4	37.7%	
		〈Question 2〉	4	☆19.5%	
②	※1		4	62.0%	☆53.8%
	※2		4	38.7%	
	3	※(1)	4	56.9%	
		(2)	12	☆57.6%	
③	※〔問1〕		4	40.2%	50.1%
	※〔問2〕		4	61.1%	
	※〔問3〕		4	42.6%	
	※〔問4〕		4	66.8%	
	※〔問5〕		4	72.3%	
	※〔問6〕		4	39.4%	
	※〔問7〕		4	28.2%	
④	※〔問1〕		4	57.8%	43.3%
	〔問2〕		4	36.3%	
	※〔問3〕	(1)	4	52.4%	
		(2)	4	41.1%	
		(3)	4	40.9%	
	※〔問4〕	(1)	4	33.3%	
		(2)	4	41.3%	
	(注1) ☆は部分正答も含めた割合				
(注2) ※は記号選択式の問題					

#### (4) 社会

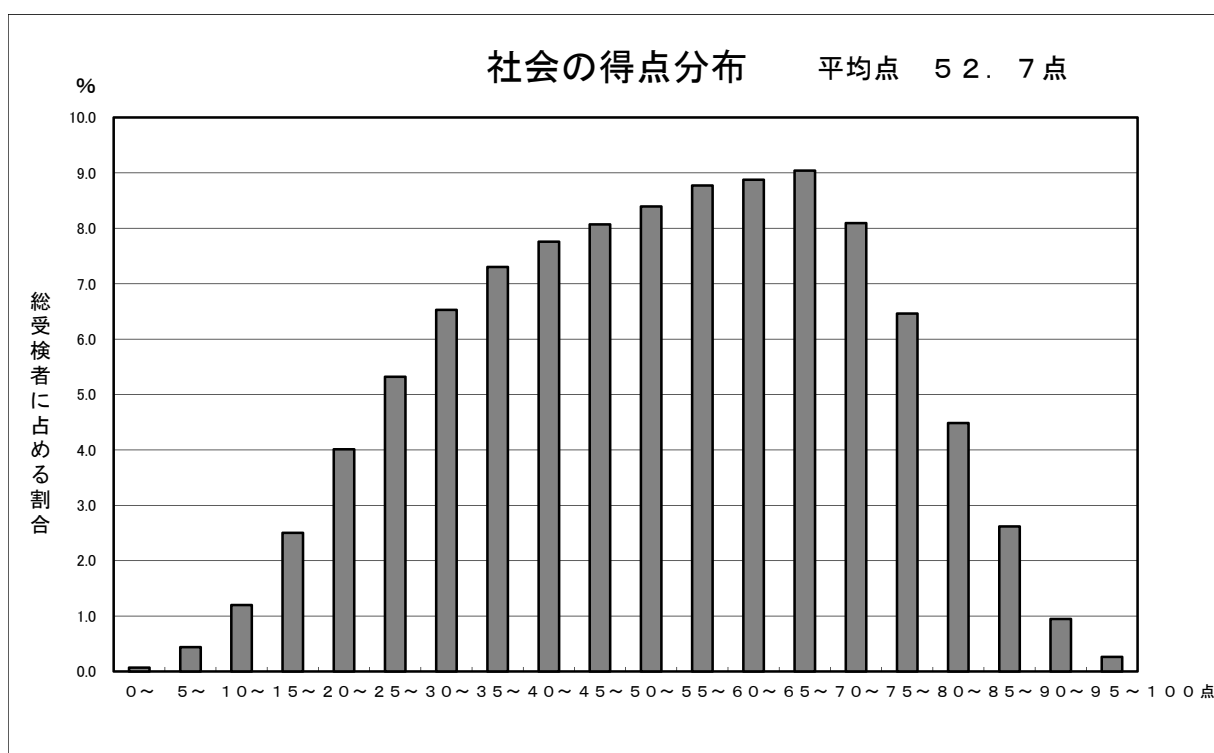
##### ア 出題の方針

地理的分野，歴史的分野及び公民的分野について，基礎的・基本的な知識・理解及び技能をみるとともに，地図や統計等の資料を活用して，社会的事象を多面的・多角的に考察し，適切に表現する能力をみる。

##### イ 各問のねらい

- 1 地理的分野，歴史的分野及び公民的分野について，基礎的・基本的な知識・理解及び技能をみる。
- 2 世界の諸地域の特色や我が国と世界の結び付きについて，地図や統計等の資料を活用して考察する能力をみる。
- 3 我が国の国土や地域的特色について，地図や統計等の資料を活用して，自然環境や産業等の面から考察し，適切に表現する能力をみる。
- 4 世界の歴史を背景にした我が国の歴史について，年表等の資料を活用して，政治，経済及び文化等の面から考察する能力をみる。
- 5 現代の社会的事象について，統計等の資料を活用して，政治や経済等の面から考察し，適切に表現する能力をみる。
- 6 現代社会の諸問題について，地図や統計等の資料を活用して，地理的分野，歴史的分野及び公民的分野の3分野から総合的に考察する能力をみる。

##### ウ 得点分布状況



〈昨年度との比較〉

平均点は52.7点となり，昨年度より8.8点下降した。

今年度は，分布のピークが昨年度と同様に65点～69点となり，45点未満の受検者の割合が増加した。

エ 各問の内容及び正答率並びに誤答分析

(ア) 各問の内容及び正答率

- ① 地図から読み取った情報を基にしての景観写真の判別、江戸時代の滑稽本の作者、日本国憲法の条文が保障する権利を問う問題とした。
- ② 一次産品を題材として、時差を計算することにより特定される都市の位置及び気候、漁獲量や日本に輸出される魚介類の漁法などを基にしたそれぞれの国の特色、日本と東南アジア諸国連合加盟国それぞれの国との貿易額や輸入品の特色について問う問題とした。
- ③ 人口を題材として、我が国の自然環境、産業と地域振興の様子、製造業事業所数、繊維工業事業所数、製造業従業者数、繊維工業従業者数、製造品出荷額などを基にしたそれぞれの都府県の特色、再開発による地域の変容について問う問題とした。
- ④ 移動を題材として、飛鳥時代から安土・桃山時代にかけての政治を行う拠点の様子、我が国の海外との交流と日本町の様子、略地図を活用した鉄道の役割や鉄道に関する出来事、輸出品に関する主な出来事について問う問題とした。
- ⑤ 経済主体を題材として、国民所得倍增計画による消費者物価指数と月間現金給与額の割合が増加した国民生活の変化、消費支出に占める被服及び履物費の変化、我が国の税金の収入額の推移、両院協議会の開催時期について問う問題とした。
- ⑥ 研究を題材として、研究所の立地する国の歴史と様子など、研究の成果と技術の応用、我が国において開発された最新技術を活用している国について、資料を基に問う問題とした。

大問	小問	配点	小問正答率	大問正答率
1	※〔問1〕	5	72.6%	68.4%
	※〔問2〕	5	54.7%	
	※〔問3〕	5	77.7%	
2	※〔問1〕	5	52.7%	28.0%
	※〔問2〕	5	10.9%	
	※〔問3〕	5	20.3%	
3	※〔問1〕	5	51.5%	☆51.8%
	※〔問2〕	5	24.0%	
	〔問3〕	5	☆79.8%	
4	※〔問1〕	5	48.9%	43.0%
	※〔問2〕	5	8.4%	
	※〔問3〕	5	52.6%	
	※〔問4〕	5	62.2%	
5	〔問1〕	5	☆45.5%	☆58.6%
	※〔問2〕	5	60.0%	
	※〔問3〕	5	78.0%	
	※〔問4〕	5	51.0%	
6	※〔問1〕	5	39.6%	47.6%
	※〔問2〕	5	37.9%	
	※〔問3〕	5	65.3%	

(注1) ☆は部分正答も含めた割合

(注2) ※は記号選択式の問題

(イ) 主な誤答例等

- ① 〔問2〕では、「エ」という誤答が多かった。これは、江戸時代の文化の特色についての理解が十分ではないためと考えられる。
- ② 〔問2〕では、「W-I」、「Z-E」という誤答が多かった。これは、説明文で示されている山脈、気候、海流などの複数の情報を活用し、国を特定することができなかつたためと考えられる。
- ③ 〔問2〕では、「ア、Z」という誤答が多かった。これは、略地図中の位置については、説明文の内容から京都府であると判断し、「Z」と正しく選択したものの、統計資料については、製造業事業所数、繊維工業事業所数、製造業従業者数、繊維工業従業者数、製造品出荷額の数値から、地域的特色を読み取り、京都府を特定することができなかつたためと考えられる。
- ④ 〔問2〕では、Iについては「ウ」の正答が多かったが、IIについては「B」という誤答が多かった。これは、我が国における17世紀初めの貿易の様子を地図と関連付けて捉える力が十分ではないためと考えられる。
- ⑤ 〔問2〕では、「エ」という誤答が多かった。これは、説明文に示されている「2010年から2015年にかけて、食料費の消費支出額が増加しているのに対し、被服及び履物費は約13000円台で推移している。」という情報から表を活用して、被服及び履物費であることを特定することができなかつたためと考えられる。
- ⑥ 〔問3〕では、「X」という誤答が多かった。これは、1980年以降の人口増加率と経済成長率の推移についてグラフを活用して読み取る力と、世界地図を活用して説明文と世界の主な国々の位置を関連付けることが十分ではないためと考えられる。

オ まとめと指導の改善の視点

- (ア) 地理的分野については、地形図の読図など基礎的・基本的な地理的技能は身に付いているが、地理的事象について、地図帳を活用し、複数の地理情報を関連付けて考察し、地域的特色を理解させる学習の一層の充実が求められる。
- (イ) 歴史的分野では、世界の歴史を背景にした我が国の歴史について理解させる指導を継続することが必要である。また、各時代の歴史の大きな流れを理解させ、様々な資料を活用し、歴史的事象を多面的・多角的に考察させる学習の一層の充実が求められる。
- (ウ) 公民的分野については、基礎的・基本的な事項は身に付いているが、政治や経済の諸制度を成り立たせている基本的な考え方や仕組みについて、多面的・多角的に考察し、事実を正確に捉える学習の一層の充実が求められる。
- (エ) 論述問題については、社会的事象から課題を見だし、多面的・多角的に考察したことについて適切に表現する力を身に付けさせる学習の一層の充実が求められる。

(5) 理科

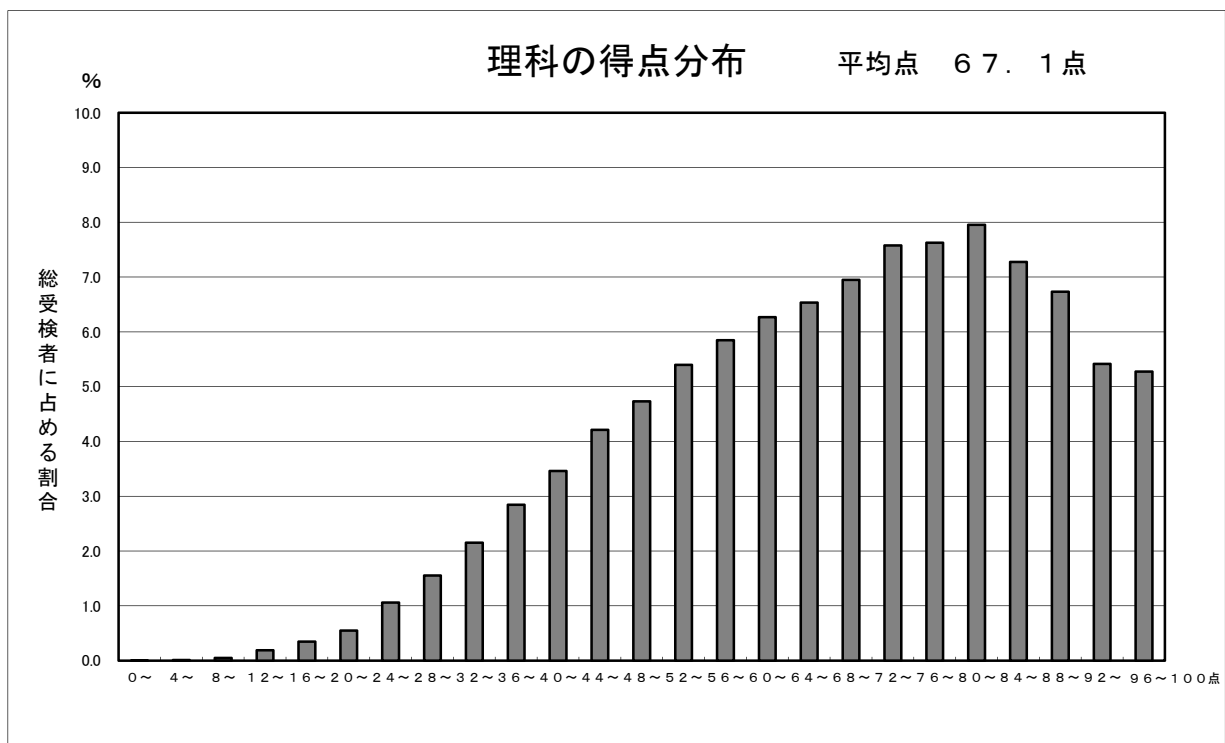
ア 出題の方針

自然の事物・現象について、基礎的・基本的な事項の知識・理解をみるとともに、観察・実験や探究的な活動を通して科学的な思考力や表現力をみる。

イ 各問のねらい

- 1 第1分野（物理・化学）と第2分野（生物・地学）の各領域における基礎的・基本的な事項の知識・理解をみる。
- 2 日常生活に関わる探究的な活動を通して、科学的な思考力や複数の領域にわたる事項の知識・理解をみる。
- 3 地学的領域について、基礎的・基本的な事項の知識・理解をみるとともに、観測を通して科学的な思考力や表現力をみる。
- 4 生物的領域について、基礎的・基本的な事項の知識・理解をみるとともに、実験を通して科学的な思考力をみる。
- 5 化学的領域について、基礎的・基本的な事項の知識・理解をみるとともに、実験を通して科学的な思考力や表現力をみる。
- 6 物理的領域について、基礎的・基本的な事項の知識・理解をみるとともに、実験を通して科学的な思考力をみる。

ウ 得点分布状況



〈昨年度との比較〉

平均点は67.1点となり、昨年度より5.6点上昇した。

今年度は、分布のピークが昨年度の76点～79点から80点～83点に移るとともに、92点以上の受検者の割合が増加した。

## エ 各問の内容及び正答率並びに誤答分析

### (ア) 各問の内容及び正答率

- 1 各領域における基礎的・基本的な事項の知識・理解をみる問題とした。
- 2 暮らしの中の防災に関する探究的な活動を通して、複数の領域にわたる事項の知識・理解及び科学的な思考力をみる問題とした。
- 3 地震の観測記録を通して、地震の伝わり方や地震の起こる仕組みについての知識・理解及び科学的な思考力や表現力をみる問題とした。
- 4 植物のつくりの観察と、遺伝の規則性を調べる実験を通して、親の形質が子に伝わる時の規則性についての知識・理解及び科学的な思考力をみる問題とした。
- 5 銅と酸化銅を用いた実験を通して、酸化や還元及び質量の保存についての知識・理解及び科学的な思考力や表現力をみる問題とした。
- 6 小球の運動とエネルギーを調べる実験を通して、運動の規則性や力学的エネルギーの保存についての知識・理解及び科学的な思考力をみる問題とした。

### (イ) 主な誤答例等

- 1 [問6] では、「ア」という誤答が多かった。これは、光が空気からガラスへ進むときの入射角と屈折角の大きさの関係についての理解が十分でなかったためと考えられる。
- 2 [問1] では、「ウ」という誤答が多かった。これは、食塩がナトリウムイオンと塩化物イオンに電離することと、ろ紙の穴（すき間）より小さい物質がろ紙の穴（すき間）を通り抜けることについての理解が十分でなかったためと考えられる。
- 3 [問3] (1) では、「42km」という誤答が多かった。これは、地震発生から観測地点Cの地震計で初期微動を感知するまでの時間を除外して考えるなど、主要動の到達時刻と震源からの距離を関連付けて思考する力が十分でなかったためと考えられる。
- 4 [問3] では、仮説を検証する際に、得られるべき交配実験の結果を正しく選択できない誤答が多かった。これは、親の遺伝子の組合せから求められる子の形質の個体数の比について思考する力が十分でなかったためと考えられる。
- 5 [問4] では、「ア」という誤答が多かった。これは、用いた酸化銅の質量 1.00 g から試験管に残った物質の質量 0.84g を引き算で求めるなど、全ての酸化銅を還元するために必要な炭素が試験管内に不足していることを捉え、質量の保存について思考する力が十分でなかったためと考えられる。
- 6 [問2] では、「170m/s」という誤答が多かった。これは、[m/s] で求めなければならない速さの計算を、[cm/s] で計算して求めるなど、速さの単位についての理解が十分でなかったためと考えられる。

## オ まとめと指導の改善の視点

- (ア) 3 [問3] の正答率が低いことから、観察・実験の結果から多角的、統合的に考察したことを、文章で表現する力が十分ではないと考えられる。引き続き、基礎的・基本的事項の知識・理解の定着を図るとともに、既習事項や観察・実験の結果、複数の事物・現象等を関連付けて考察し、表現する学習活動の一層の充実が必要である。
- (イ) 各領域における基礎的・基本的事項の知識・理解についてはおおむね定着しているが、4 [問3] と 5 [問4] の正答率が低いことから、基礎的・基本的事項を活用して科学的に思考することに課題があると考えられる。観察・実験の結果を分析して解釈することに加え、習得した知識に基づき生徒自らがすすんで観察・実験の計画を立てるなどの科学的に探究する学習活動の充実が必要である。

大問	小問	配点	小問正答率	大問正答率
1	※ [問 1]	4	93.8%	69.6%
	※ [問 2]	4	56.3%	
	※ [問 3]	4	78.5%	
	※ [問 4]	4	78.8%	
	※ [問 5]	4	65.7%	
	※ [問 6]	4	48.4%	
	※ [問 7]	4	65.8%	
2	※ [問 1]	4	68.1%	74.6%
	※ [問 2]	4	84.7%	
	※ [問 3]	4	75.3%	
	※ [問 4]	4	70.4%	
3	※ [問 1]	4	75.8%	☆53.4%
	※ [問 2]	4	81.7%	
	[問 3] (1)	2	17.2%	
	[問 3] (2)	2	☆34.5%	
4	※ [問 4]	4	57.7%	50.9%
	※ [問 1]	4	74.8%	
	※ [問 2]	4	44.1%	
5	※ [問 3]	4	33.8%	☆58.7%
	※ [問 1]	4	74.1%	
	[問 2]	4	☆72.7%	
6	※ [問 3]	4	51.7%	51.2%
	※ [問 4]	4	36.2%	
	※ [問 1]	4	58.4%	
6	[問 2]	4	36.6%	51.2%
	※ [問 3]	4	58.7%	
	※ [問 1]	4	58.4%	

(注1) ☆は部分正答も含めた割合  
(注2) ※は記号選択式の問題